

資本と強み

あすか製薬ホールディングスグループは、多様な資本を基盤に事業の成長を推進しています。製造資本、知的資本、自然資本、社会関係資本、人的資本の強化が財務資本の増強につながる好循環を築くことで、企業価値の向上と持続的成長を目指します。



財務資本

▶詳細は P.49-52

特徴

当社グループの財務資本は、国内医療用医薬品市場の構造変化や研究開発の不確実性を踏まえ、事業ポートフォリオの戦略的管理を重視しています。中期経営計画2025では、売上・収益性の目標を達成し、成長投資を支えるキャッシュ創出力と財務基盤を確立しました。中期経営計画2028では新たにROICを軸とした経営により、事業別の収益性と資本効率の可視化を進めています。株主還元については、総還元性向40%を目安とした累進配当により安定性と成長性を両立しています。これらを通じて、資本効率の向上と企業価値の最大化を実現しています。

2025年度実績

売上高 **711** 億円、営業利益率 **8.2%**
ROE **8.0%**

資本強化の方向性

資本コストや株価を意識した経営を強化し「成長投資」「株主還元」「資本効率向上」を柱とする財務戦略を推進します。中期経営計画2028では、約450億円規模のキャッシュ配分により研究開発やグローバル展開を加速します。あわせてROICを基軸とした投資判断とモニタリングを徹底し、資源配分の最適化を図ります。さらに、IR活動の高度化を通じて投資家との対話を深化させ、市場における適正な評価の獲得を目指します。

関係するマテリアリティ

ガバナンス強化



製造資本

▶詳細は P.53-56

特徴

当社グループの製造資本は、創薬から開発、生産、供給に至る一体的な体制により構築されています。いわき工場、本社サプライチェーン機能、湘南研究所が連携し、高品質な医薬品の安定供給と効率的な生産を実現しています。さらに、オープンイノベーションやイオンチャネル創薬技術の導入により研究基盤を強化し、アンメットニーズへの対応力を高めています。加えて、DXの活用による業務高度化とデータ活用により、生産性と供給の安定性を向上させています。これらを通じて、持続可能で強靱な供給基盤を確立しています。

2025年度実績

設備投資額 **23** 億円
生産拠点 **いわき工場**

資本強化の方向性

製造基盤の高度化に向け、サプライチェーン全体の最適化と研究開発との連携強化を推進します。これにより開発品の円滑な商業化と需給・物流機能の高度化を実現します。また、DXを活用した業務改革や環境負荷低減の取り組みを通じて、生産性と持続可能性の両立を進めます。製造から供給までの全体最適を図ることで、安定供給と事業成長を支える基盤の強化を目指します。

関係するマテリアリティ

環境経営の推進／高品質な製品の安定供給と
適正情報提供／人権の尊重



知的資本

▶詳細は P.53-56

特徴

当社グループの知的資本は、内分泌・ホルモン領域で培ってきた研究基盤を軸に、研究開発と連動した知的財産戦略のもとで形成されています。特許・商標などの知的財産を創出から権利化、活用まで一体的に管理し、製品価値の最大化を図っています。さらに、医療現場や患者ニーズを起点とした開発や、オープンイノベーションによる産官学連携を通じて、社会的価値と競争優位性を両立する知的基盤の強化につなげています。

2025年度実績

研究開発費 **70** 億円
研究拠点 **湘南研究所**

資本強化の方向性

知的財産の創出・権利化・活用プロセスを高度化し、知的財産ポートフォリオの最適化による技術優位性の確立を図ります。また、医療ニーズを起点とした価値創出をさらに強化するとともに、産官学連携やグローバルパートナーとの協働を通じてオープンイノベーションを加速します。多様な知見の融合により新たな知的財産の創出を進め、競争力と付加価値を高める進化を目指します。

関係するマテリアリティ

ガバナンス強化

イントロダクション

価値創造ストーリー

- 7 社長メッセージ
- 11 価値創造プロセス
- 12 事業環境認識
- 14 マテリアリティ
- 17 資本と強み**
- 19 ビジネスモデル
- 20 ステークホルダーへの提供価値
- 21 特集:女性医療の重要性とあすかのポテンシャル

戦略解説

価値創造の基盤

コーポレートデータ



イントロダクション

価値創造ストーリー

- 7 社長メッセージ
- 11 価値創造プロセス
- 12 事業環境認識
- 14 マテリアリティ
- 17 資本と強み
- 19 ビジネスモデル
- 20 ステークホルダーへの提供価値
- 21 特集:女性医療の重要性とあすかのポテンシャル

戦略解説

価値創造の基盤

コーポレートデータ



自然資本

▶詳細は P.57-60

特徴

当社グループの自然資本は、事業活動が自然環境に依存していることを前提に、環境負荷低減と資源の持続可能な利用を軸として形成されています。CO₂排出削減、省エネルギーの推進、廃棄物管理の適正化などの取り組みに加え、サプライチェーン全体における環境負荷の把握と低減を進めています。また、TCFD・TNFD提言に基づくリスク・機会の管理を通じて、環境変化への対応力を高めています。これらにより、事業のレジリエンス向上につなげています。

2025年度実績

CO₂排出量 **7,927** t-CO₂
電力使用量 **11,095** 千kWh
取水量 **172.59** 千m³

資本強化の方向性

CO₂排出削減や再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、水資源や廃棄物の管理を高度化し、環境パフォーマンスの向上を図ります。あわせて、バリューチェーン全体でのリスク・機会の可視化と情報開示の強化を進め、環境変化への対応力を高めます。持続可能な資源利用と環境配慮型の事業運営を両立させることで、事業継続性と企業価値を支える基盤の強化を目指します。

関係するマテリアリティ

環境経営の推進



社会関係資本

▶詳細は P.61-64

特徴

当社グループの社会関係資本は、医療関係者や患者、地域社会、取引先との信頼関係を基盤に形成されています。医薬品の適正使用を支える情報提供や品質・安全性の確保を通じて医療現場への価値提供を行うとともに、MRによる対話活動とデジタルを融合した情報発信によりコミュニケーションの高度化を進めています。さらに、女性の健康支援や地域活動、人権尊重を軸とした取り組みを通じて、社会との持続的な共生関係を築いています。

2025年度実績

主要事業所 国内子会社**23**拠点および、
在外子会社本社・工場ほか**33**営業所

資本強化の方向性

ステークホルダーとの対話の質と情報提供体制の高度化を通じ、信頼関係のさらなる深化を図ります。あわせて、女性の健康支援や地域社会との共生、人権デューデリジェンスの強化を推進し、社会課題への対応力を高めます。サプライチェーンを含めた責任ある事業運営を徹底することで、社会的価値と企業価値の両立を図り、持続可能な関係性の発展を目指します。

関係するマテリアリティ

女性の健康とアニマルヘルスに貢献する／高品質な製品の安定供給と適正情報提供／人権の尊重



人的資本

▶詳細は P.65-70

特徴

当社グループの人的資本は、中期経営計画の実現に向け、専門人材および次世代経営人材の育成を軸として強化されています。変化を機会と捉え挑戦できる人材の育成に加え、自律的な学習や多様なキャリア形成を支援する人事制度と教育体制を整備しています。さらに、女性活躍推進や多様性の尊重、健康経営の推進を通じて、すべての人材が能力を発揮できる環境づくりを進めています。これらにより、組織の創造力と競争力の向上を実現しています。

2025年度実績

従業員数 **1,611** 名(連結)
女性管理職比率 **14.3**%

資本強化の方向性

経営戦略と連動した人材戦略を高度化し、次世代経営人材および専門人材の計画的育成を推進します。また、評価・育成制度やジョブローテーションの強化により人材の最適配置と成長を促進します。さらに、DE&Iやエンゲージメント向上施策を通じて組織力を高め、人的資本の価値最大化を図ることで、企業価値の持続的向上を目指します。

関係するマテリアリティ

企業価値向上のための多様な人材の育成／人権の尊重

